

活用効果調査表

活用調査表

様式6

技術名	登録 No.
	18D1010

施工内容

施工年度	平成23年度
発注機関	長岡地域振興局地域整備部与板維持管理事務所
工事名	二級河川郷本川広域河川改修2級(地域戦略)付替水路工事
施工地	長岡市島崎 地内
施工数量	12m ³

新技術の概要

建設工事に伴って発生する無機汚泥(セメント系)を造粒固化し、再び下層路盤材等の路盤材料として使用するためのリサイクル材料です。

トライアル工事での評価結果

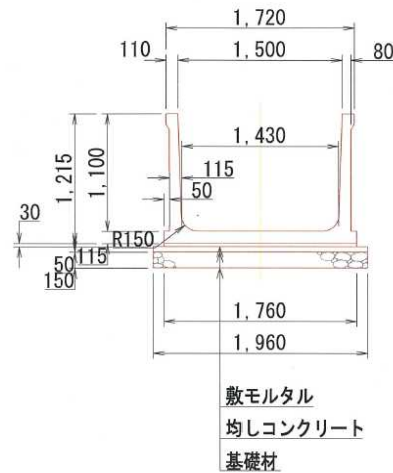
比較した従来技術		再生砕石(RC-40)
項目	評価	評価内容
経済性	×	RCと比較すると2倍程度割高である。現場で汚泥が発生し、処分が必要な場合は、全量基礎材として現場内でリサイクルすることで6割程度のコスト削減につながる。
工程	□	工程は従来技術と変わらない。
品質 出来形	□	従来技術(RC)より軽量で強度は基礎材として十分であるため、軟弱地盤に対して有利である。
安全性	□	安全性は従来技術と変わらない。
施工性	○	従来技術(RC)より3割程度軽量であるため、作業員の負担が軽減する。
環境	○	建設汚泥を再生路盤材に再利用しているため、建設廃棄物の削減につながる。
その他		建設汚泥の再生路盤材は全国的に品質基準が確立されており、適正な利用によるリサイクルへの貢献が期待される。

◎:優れている ○:やや優れている
□:従来技術と比べて同程度
△:やや劣っている ×:劣っている

活用上の 留意点	現場内のリサイクルであれば大幅なコスト削減が見込まれる。 なお、従来技術(RC)より軽量であるため、使用箇所に留意する必要がある。
-------------	--

新技術問い合わせ先

会社名	株式会社山隆組 汚泥リサイクルセンター
所属部課	環境リサイクル部
担当者	永野 久雄
TEL	0250-24-9020



図面1－標準断面図



写真一2



写真一3